

8月

# 教会教育室だより

宣教部 教会教育室 2020.8.19発行



本年7月より教会教育室室長に就任しました、市川大野教会の富田直美です。どうぞよろしくお願いいたします。例年でしたら、夏期学校やキャンプと、忙しいながらも楽しい夏を過ごしている時期ですが、今年は想像したことのない夏を切り開いて過ごすこととなりました。礼拝や、教会学校、夏休みの過ごし方にも工夫が必要で、たくさんの知恵が結集していることでしょう。今年度後半の活動もどのように作っていくか考え、相談を始めているかも知れません。

教会教育室では、しばらく皆さまと顔を合わせることが難しいので、研修会を企画することは諦めて「教会教育室だより」で、諸教会の皆さまと繋がりたいと考えました。『聖書教育』とは一味違った軽やかな交流広場になればと考えています。教会に掲示していただいたり、連盟のホームページからダウンロードして配信いただくなど、色々なスタイルや方法でお手元に届き、話題にさせていただけることを願っています。

(教会教育室 室長 富田直美)

## CSアルバム



テレビ会議ツール（zoom）をつかったクラスで描いた絵やお手紙を教会に送ってもらい、リーダーが施設に届けた時の写真と一人ひとりの作品を無料通話アプリ（LINE）で共有。次週、喜んでくださった様子をリーダーから聞いて、みんなニコリ。「花の日、離れていてもできたね！」今年ならではの嬉しい経験でした。（富士吉田教会）

## 教会学校月間のはじまり

1950年以前、初秋の主日を日曜学校の振起日（しんきび）として守ってきたのが「教会学校週間」の始まりです。

1988年度第4回理事会で、「教会学校週間」を「教会学校月間」に変更することが可決され、教会学校推進がさらに強化されるようになりました。週間の時には、週間のはじまりの日曜日を、教会学校の働きのアピールに、次の日曜日を最高出席日とすることが多かったようですが、月間になることで、4回の日曜日にそれぞれの教会が教会学校のスタイルにあわせて工夫したプログラムを持つようになり、教会教育室では『聖書教育』などで「教会学校月間」のプログラムを紹介し、ポスターや冊子などを諸教会にお届けしてきました。

今年は特別なプログラムを提案することよりも「今、この時に何を大事に考えていこうか」と模索していたところ、『聖書教育』2011年789月号「教会学校月間によせて」（加藤誠さん）の言葉に再会しました。掲載されていた言葉は『「キリストのからだ」を担うチームとして機能していくために、この月間が有意義に用いられますように』です。2020年、教会に集うことがままならない私たちが、バラバラでなく、「キリストのからだ」を担うチームであることを意識することは重要です。チームとして機能するにはどうしたら良いでしょう。いくつかの教会の取り組みを紹介したいと思います。（富田）

## 教会学校レポート

集まらない状況の中、各教会で工夫して教会学校が行われていることと思います。3つの教会の礼拝、教会学校レポートです。みなさんの教会のレポートもお待ちしています。写真も大歓迎です。

\*礼拝の中で弟子たちが乗った舟が嵐に遭うお話をしました。ズームで参加した人も大人も子どもと一緒に舟の折り紙を折って、その舟をみながらイエスさまのお話を聞きました。（横浜戸塚教会）

\*嬰幼児の子どもも家族と一緒にzoomで教会学校をしました。顔がうつるのが恥ずかしい子も、お名前を呼ばれるとうれしそうだったようです。youtubeにあわせて、ダンス付きの賛美をしていると、普段は教会に来ていないパパも引っ張り出されたりして、楽しかったです。（富士吉田教会）

\*日曜日のクラスの時間を短縮しているので水・木の祈禱会で「みんなで聴く聖書のおはなし」を味わいます。そして、日曜日にクラスで分かち合います。（市川大野教会）

## 9月は教会学校月間です 互いに覚えあう工夫をしながら、 み言葉を分かち合いましょ。

「教会教育室だより」は連盟のHPからダウンロードしていただけます。

### (アウトリーチ日記)

3月～教会学校お休み。  
クラスメンバーに  
毎週メール送る



5月、Aさんから  
お返事がない。  
お元気かな。メール、  
迷惑じゃないかな



7月、Aさんから  
はじめての返信！  
とびあがって喜ぶ



こちらこそ あ・り・が・い・ま・す